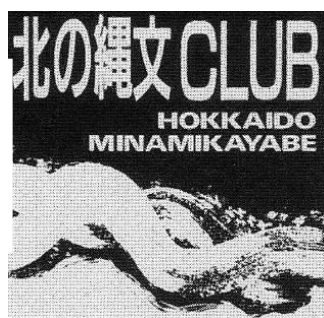


北の縄文文化回廊  
に向けたクラブ活動



# 通 信

第 24 号



祝 世界文化遺産登録決定 !

## 目 次

- 1. はじめに ..... 2
- 2. 令和3年度活動一覧 ..... 2
- 3. 各活動内容 ..... 3～5
- 4. 関連活動 ..... 6～8

## 1. はじめに

令和3年度の活動は、昨年同様、コロナ過のために思うような活動ができませんでした。しかし、5月には念願であった「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界文化遺産登録が内定、7月に正式登録がなされ、関係各所の人々と共に喜びを分かち合えたと思います。登録はクラブの活動に参加・協力して頂いた北の縄文CLUB会員皆様一人一人の熱意によって実現に至ったものと確信しております。

これからも、より一層のCLUB独自の活動や史跡内清掃などのボランティア活動、他団体・関係機関との連携協力を進め、さらなる縄文文化の普及を行います。

以下、令和3年度の活動内容を報告いたします。

## 2. 令和3年度 活動一覧

活動日	主な活動	参加人数	活動場所
4月25日	大船遺跡清掃	8名	史跡大船遺跡
8月29日	縄文土器づくり	10名	南茅部総合センター
10月10日	縄文土器野焼き（1回目）	12名	史跡大船遺跡
11月16日	縄文土器野焼き（2回目） （NCV取材での縄文調理への協力）	10名	史跡大船遺跡
2月6日	シーニックdeナイト(中止)		

### （関連活動）

- 4月13日 空港内放映のビデオ制作取材へ協力（えんれいしゃ）
- 4月15日 飛行機内PR用冊子への文章・写真の提供（札幌国際大学 ← 越田氏からの依頼）
- 4月29日 シーニックバイウエイ北海道 函館・大沼噴火湾ルート  
バイパス沿線の清掃活動・プランターへの花卉植栽（縄文文化交流センター）
- 6月5日 取材下見へ協力（NHK札幌）
- 6月20日 テレビ放送の取材・撮影へ協力（NHKおはよう北海道にて7/9に放映）
- 7月4日 土器づくり取材へ協力（えんれいしゃ）
- 7月8日 遺跡解説の様子撮影へ協力（読売新聞社）
- 7月20日 函館市市民貢献賞を受賞（ロイヤルホテルにて表彰式）
- 10月30～31日 南茅部地域文化祭へ出品（南茅部総合センター）
- 11月6日 縄文調理取材へ協力（NCV 大船遺跡 学習体験広場にて）

### 3. 活動内容

#### (1) 清掃活動

4月25日(土)、史跡大船遺跡に集合して清掃を行いました。他に市教委や交流センターの方々も参加されました。今年も見学客の皆さんに気持ちよく散策していただけるよう、縄文時代の土偶や土器の壁画が飾られている国道278号からの接続道路清掃から開始しました。道路の縁に生えた雑草やたまった泥土の除去作業を行いました。泥土はたくさんたまっていて、重くて収集も大変でした。当日は風が強く、枯れ葉が風に舞って飛び散らかるほどでした。眼前に広がる太平洋には白波が立っています。大船遺跡後背の山に目を向けると、寒さが残るなか、シロザクラ(キタコブシ)の花の白さがひとときわ映え、縄文のにわや縄文の森でも春を告げる草花が芽吹きはじめていました。来年もまた、この活動を続けていきます。



みんなでやろう。きれいにしましょう。

## (2) 土器づくり

8月29日(土)午前10時から函館市川汲町の南茅部総合センターを会場として土器づくりを行いました。CLUB会員外の方も参加されました。皆さん、真剣そのもの。形作られる土器に一喜一憂、次第に土器の高さが増す方や装飾に念を入れられる方、さらにもう一品を作る方など参加者思い思いに心を込めて作製されました。野焼きでの焼き上がりが楽しみです。



さあ、はじめましょう！

## (3) 土器野焼き

10月10日(土)、史跡大船遺跡学習体験広場で土器の野焼きを行いました。今回は風回りがよく、焼成も成功といえます。焼き上がりの土器を試しに棒でたたいてみると固く締まったものは澄んだ音が響き、焼きが甘いものは木魚のようなくぐもった音がします。いろんな形・いろんな音があって、みんな違って、みんないい。



下焼き



本焼き、燃え盛る炎



いい色に焼き上がりました

## 4. 関連活動

### (1) 函館市民貢献賞受賞

令和3（2021）年7月30日、北の縄文CLUBは函館市市民貢献賞を受賞いたしました。当CLUBの長年の活動を認めていただいたということをととても嬉しく思います。ひとえに会員皆様のご協力・ご支援の賜物です。今後も縄文時代の人々の知恵や技術力の素晴らしさを皆様に伝えていきたいと思ひます。  
(大宮トシ子)



函館市市民貢献賞表彰式



函館市市民貢献賞賞状

### (2) 世界文化遺産登録決定！

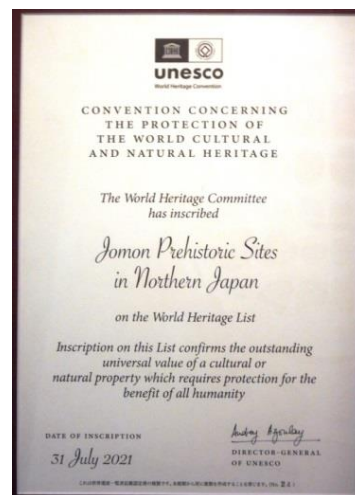
令和3（2021）年7月31日、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に正式登録されました。南茅部地域では「大船遺跡」・「垣ノ島遺跡」の2つの遺跡が該当します。

登録勧告発表は5月26日の夕刻でしたので、翌27日に函館市縄文文化交流センター(以下、交流センター)と大船遺跡管理棟に登録勧告の垂れ幕が掲示されました。そして、7月28日に改めて垣ノ島遺跡の盛土遺構一般公開に合わせ、同遺構内で登録決定の記念式典が開催されました。

なお、表紙の写真は前記の記念式典である「世界遺産登録決定・垣ノ島遺跡オープン祝賀セレモニー」終了後に撮影したもので、写真の人物が薬玉を割ったわけではありませんので念のため。



実際の式典の様子はコチラ



世界遺産一覧表記載認定証複本  
(大船遺跡版)

交流センターによれば、垣ノ島遺跡に付属する同施設の入館者数は令和2（2020年）年度の累計では18,307名でしたが、令和3（2021）年度では29,838名です（垣ノ島遺跡は26,871名、7～3月末）。同様に大船遺跡に付属する大船遺跡管理棟の来客者数は令和2（2020）年度では10,324名、令和3（2021）年度では25,682名です。



テラスからの展望

さて、前述の通り垣ノ島の遺跡の盛土遺構が公開されましたが、交流センターの東側に盛土方面へ向かう入り口が設置されています。ここをくぐると盛土から太平洋にかけて眼下を見はるかすテラスに出ます。ここから垣ノ島遺跡の概観をつかんでください。テラス横の階段で降りるか折り返しのあるスロープを下ると、多目的広場の手前に「史跡 垣ノ島遺跡」の文字を刻んだ石碑が設置されています。遺跡内には所々に説明版が設置された園路が巡り、当時を偲ぶことができます。盛土手前には発掘や土器野焼き等の体験を行うことができるスペースもあります。

垣ノ島遺跡といえば盛土、盛土といえば垣ノ島遺跡ともいえるでしょう。盛土は北側が開いたコの字形をしており、日本種の芝が張られています。海側盛土の上からは周囲の山々や沿岸の風景をお楽しみください。

かつて、この一帯は発掘調査前には畑として使用されていました。垣ノ島遺跡は、縄文人たちと現代の我々とを繋ぐ場所であることが理解できると思います。また、ガイダンス施設にはガイドが常駐していますので、いろいろな質問・疑問に回答していただけるとと思います。



盛土開口部へ

大船遺跡・垣ノ島遺跡や他の構成遺産だけではなく、全国にある縄文遺跡を巡って縄文の人々の声を心に聞いてみましょう。また、いろいろな文化に触れて人々が理解し合える、そのようなことができる世界になることを願っています。

2022年6月31日 第24号発行  
発行 北の縄文CLUB  
連絡先 北海道函館市白尻町 603-1  
一般財団法人  
道南歴史文化振興財団内  
TEL 0138-25-5510  
FAX 0138-25-5606